

文化財を訪ねて 30

辻の札場

～長きにわたって用いられた告知板～

江戸時代、各村や宿場町をはじめ人通りの多い場所などには各藩のお触れや法令を掲示する高札場が立てられていました。仁尾町仁尾にある『辻の札場』もそのひとつです。普門院の前に建てられており、周囲は広場になっています。当時は詫間や観音寺へ向かう交通の要所であり、周辺に多くの商家が軒を連ねていた場所で、多くの人々が集まっていました。

辻の札場は本瓦葺きの立派な造りです。棟の東西には丸亀藩を治めていた京極家の家紋である四ツ目の瓦が確認できます。柱と柱の間は、2.4mほどで、板が張られており、この周りを花崗岩の角柱が玉垣状に囲んでいます。

かつては板に直接、墨書でお触れや法令が記されており、人々にわかり易いように、仮名まじりの簡潔な文章で書かれていました。明治時代に入って廃止されるまで、高札場では様々な掲示が行われていました。

現存している高札場は数少ないため、規模が大きく保存状態が良好な辻の札場は、大変貴重な文化財であるといえます。辻の札場は昭和44年に県指定史跡になりました。

また、辻の札場は昭和54年に新しい掲示板が立てられるまで、旧仁尾町役場の公告などに用いられており、明治時代以降も人々に情報を発信し続けた珍しい高札場でもあります。

江戸時代から長きに渡って用いられた辻の札場は昔と変わらない場所で、現代の私たちにその歴史を伝えています。

<生涯学習課>



▲辻の札場



▲京極家の家紋が入った瓦

今月の市民力

70～80歳代の10人でゲートボールを楽しんでいる「たこ木チーム」。月・水・木・土の午前中、練習に励んでいます。ゲートボールを始めてよかったことは毎日定時に起床し、規則正しい生活を送るようになったこと、友達が地域から詫間町内に広がったことだそうです。今後の目標は先ず健康をずっと保つこと、そして次の大会でも優勝することと全員が笑いながらうなずいていました。皆さん、健康を維持して、頑張ってください!!

